



町長回誌

No.246

町長日誌の第246号です。町長が日頃町民の皆さんと話し合ったことや色々な出来事を町長自ら書いたものです。町民皆さんのご意見・ご要望・ご感想をお待ちしています。

4月18日(木曜日) AM8:40

昨日、午後6時20分過ぎに副町長から「豊野で牛舎火災発生!!」との電話がありました。取急ぎ駆け付けたところ既に火の手は収まりつつあり、くすぶっている状況でした。幸いなことに、現在使用していないサイロあたりからの出火で、乳牛などへの被害も無く8時半には消防も撤収しました。消防団第一分団の皆様にはお疲れのところ駆けつけて頂き感謝申し上げます。ありがとうございました。実は、今日午後、「林野火災予防対策協議会」を開催し、今年は例年以上に乾燥していることと笹が枯れているので山火事には注意しようと申し合わせたばかりでした。春の交通安全週間が終わり林野火災の予防強調期間が4月21日から5月31日まで続きます。関係する様々な皆さんで毎年この期間はパトロールを行っています。山菜取りの季節でもあります。熊に注意は言うまでもありませんが、特に喫煙される方はくれぐれもご注意ください。森林は貴重な財産であるとともに、地球温暖化の原因である二酸化炭素を吸収してくれる私たちの強い味方なのです。皆で森林を守ってまいりましょう。

3月26日(火曜日)

私が会長を務める「バイオマス産業都市推進協議会」の役員による7府省への提言書の提出と意見交換を行いました。この「7府省」と言うのは、内閣府・農林水産省・総務省・経済産業省・国土交通省・環境省・文部科学省のことで、この府省がバイオマスを中心とした産業都市構想を連携して進めようとして10年が経過しました。この間ソーラー発電が日本中に広がり北海道の日本海側を中心に洋上風力発電が勢いづいています。バイオマスには、紋別市にあるような大型の木質発電(木のチップを燃やして発電)、本町のような家畜排せつ物を発酵させ生じるメタンガスを使った発電、下水道汚泥処理で生じるメタンガスを使った発電等バイオマスの大半がメタンガスを使った発電や発酵で生まれる熱を利用した取り組みで、CO₂を大量に出す石油由来のエネルギーを削減しようとするものです。しかし、実際には発電コストが高い、原材料を集めるのが大変など課題も多く、各省庁の応援が無ければ石油エネルギーに替わることは難しいのが現実です。これらの解決策などの提言をもって毎年この時期に7府省を回っています。国は口では脱炭素を言いながら本気で脱石油を考えているようには思えず、原子力発電を再稼働すれば脱炭素化ができると考えています。しかし、放射性廃棄物の処理方法は未だにありません。寿都町と神恵内村が地層処分調査に手を挙げ、2町村で40億円の調査補償金を得ましたがこの原資は皆さんが毎月払っている電気料金から支払われていることをご存じだったでしょうか? ソーラー発電やバイオマス発電などもFIT制度により20年間限定で通常より高く売電できるのですが、これも皆さんの毎月の電気料金に再エネ賦課金として上乘せ徴収されたお金が原資となっており電気料金明細書に記載されています。しかし、放射性廃棄物処理にかかる明細は見たことがありません。不思議な話です。

明日にも桜が咲くのでは? という温かさから今日はガス模様で震えるような寒さです。

新学期、新年度が始まり不慣れな生活に苦労されている人も多いと思います。「適応力」が求められるのですが、なかなか思うようにならないのが世の常です。少し肩の力を抜いて木々の緑や小さな花たち、オホーツクの海等周りに目をやってみてはいかがでしょうか? 道端のフキノトウが大きくなっていることに気付いていますか? 季節は誰にも平等にやってきますよ! では、また。



お便りをいただく場合は、適当な便箋等を封筒など(使い古しのもので構いません)に入れ、封をして、役場窓口か、お知り合いの町職員にお渡し願います。町長のみ開封とし、お返事をさせていただきます。不明な点は、総務課総務係まで。TEL 82・2131です。

